



平成 28 年 7 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社インターアクション
代表者名 代表取締役社長 木地 英雄
(コード番号 7725 東証第二部)
問合せ先 代表取締役専務 木地 伸雄
電話番号 045-788-8373

平成 28 年 5 月期決算説明会資料及び中期事業計画策定のお知らせ

当社は 2016 年 7 月 22 日に開催する平成 28 年 5 月期決算説明会において使用する説明資料を策定いたしましたので、お知らせいたします。

本資料には、平成 31 年 5 月期を最終年度とする中期事業計画（2017 年～2019 年）が含まれております。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください

記

1. 平成 28 年 5 月期 決算概要
2. 2017-2019 中期事業計画

以上



株式会社インターアクション

東京証券取引所市場第二部 証券コード7725

決算説明会資料

平成28年5月期（第24期） 2015年6月～2016年5月

株式会社インターアクション
2016年7月22日

1. 平成28年5月期 決算概要
2. 2017-2019 中期事業計画

1. 平成28年5月期 決算概要

連結業績比較



⇒ 光学精密検査機器関連事業等の売上高増加により、連結売上高・営業利益は前期に比べ増収増益。

(単位：百万円)	平成27年5月期	平成28年5月期	前期比増減率	(参考) 平成28年5月期 業績予測
売上高	3,996	5,078	27.1%	4,100
売上総利益	1,426	1,641	15.1%	—
営業利益	456	467	2.4%	502
経常利益	445	443	△0.6%	482
親会社株主に帰属する 当期純利益	424	310	△26.9%	396
1株当たり当期純利益	42.81円	31.95円	—	40.76円
ROE	16.0%	11.0%	—	—
ROIC（投下資本利益率）	—	6.1%※	—	—

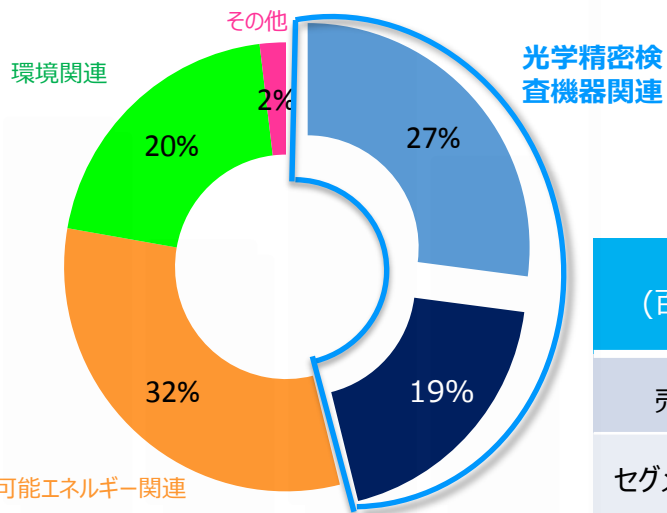
⇒ ROIC（投下資本利益率）とは… 事業に投じた資金が、どのくらいのリターンを生み出したかの投資効率を測る指標

ROIC = 税引後営業利益 ÷ 投下資本（有利子負債+株主資本） で算出

※太陽光発電に関する大型案件による一時的な借入（約350百万円）を除いた場合のROIC = **8.3%**

株主資本コスト（CAPM）8.8%、WACC（加重平均資本コスト）5.6%を想定。

セグメント別売上高の比較 光学精密検査機器関連事業



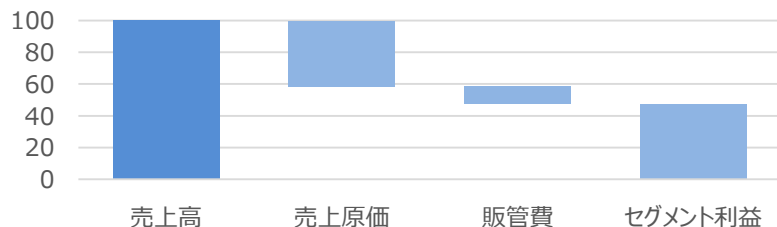
- 光源装置および瞳モジュールの売上が大幅に増加
- 精密除振装置は、海外液晶パネルメーカー向けの販売が堅調に推移
- 計画に対し、大幅に達成

光学精密検査機器関連事業 全体

(百万円)	平成27年5月期	平成28年5月期	前期比増減率	(参考) 平成28年5月期計画
売上高	1,235	2,344	89.7%	2,200
セグメント利益	434	818	88.4%	626

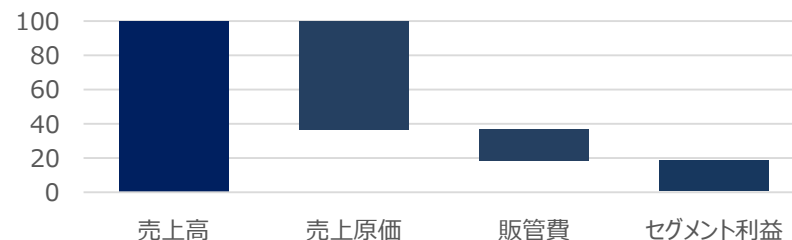
光源装置および瞳モジュール 売上高比較

(百万円)	平成27年5月期	平成28年5月期	前期比増減率
売上高	911	1,369	50.2%
セグメント利益	430	648	50.7%

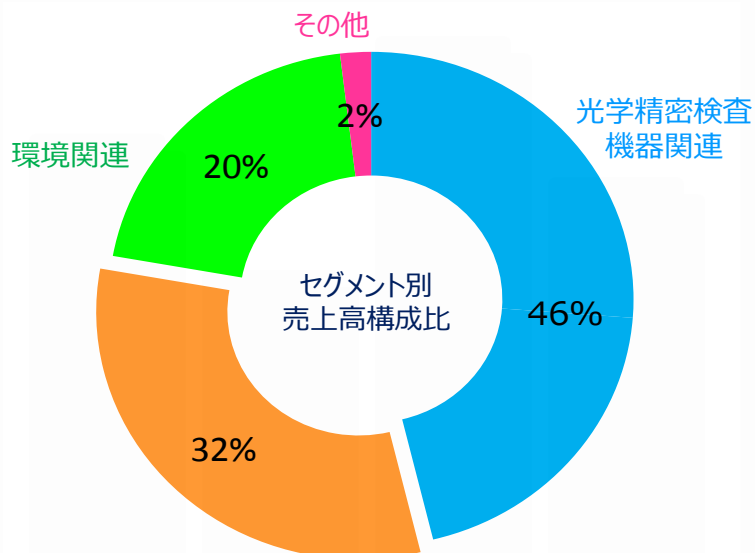


精密除振装置 売上高比較

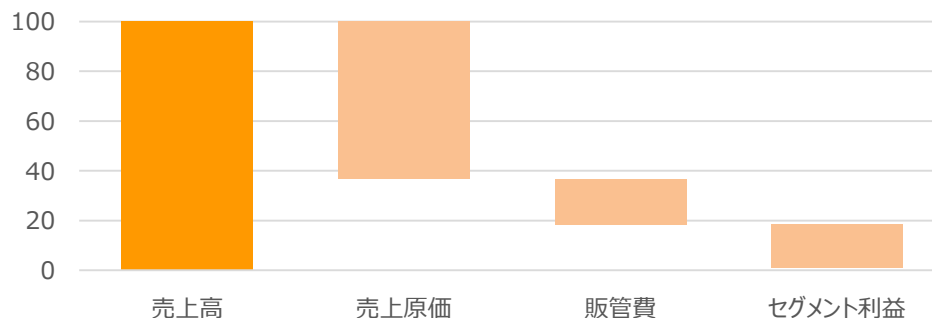
(百万円)	平成27年5月期	平成28年5月期	前期比増減率
売上高	324	975	200.8%
セグメント利益	4	170	3878.5%



セグメント別売上高の比較 再生可能エネルギー関連事業



- 売上は増加したものの、太陽光発電関連製品の市場価格低下の影響を受け、利益は減少
- 計画に対し大幅に下振れしたが、黒字を確保
- 新事業への資産シフトを検討

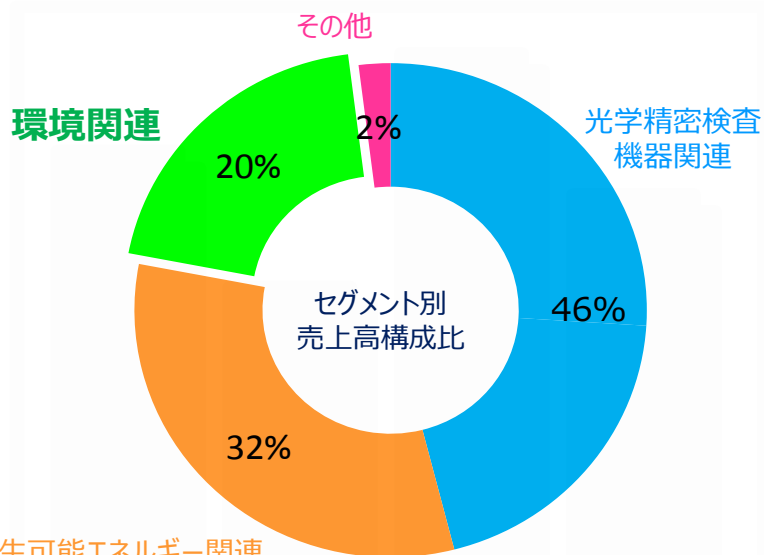


再生可能エネルギー関連

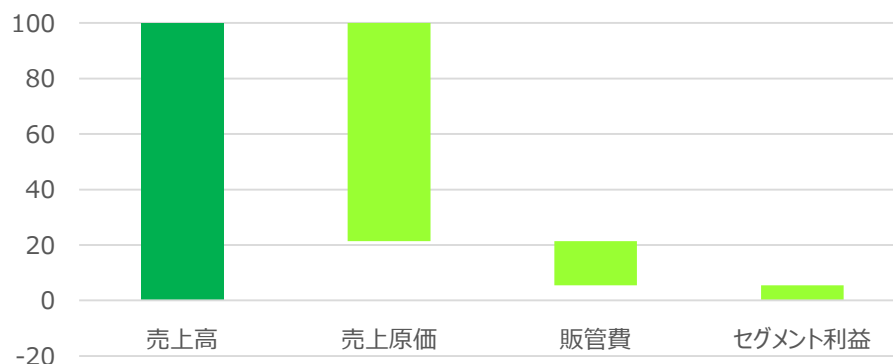
再生可能エネルギー関連事業 売上高比較

(百万円)	平成27年 5月期	平成28年 5月期	前期比 増減率	(参考) 平成28年5月期 計画
売上高	1,429	1,604	12.2%	800
セグメント利益	297	72	△75.6%	168

セグメント別売上高の比較 環境関連事業



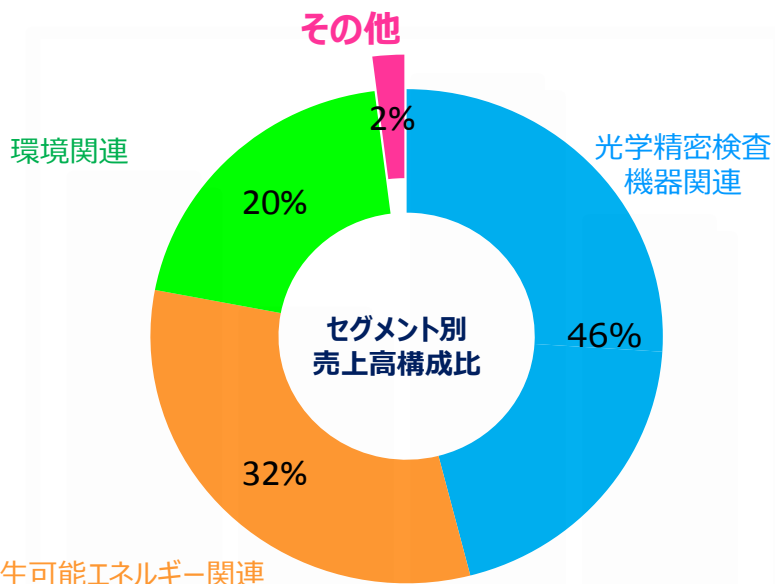
- メンテナンスサービスが堅調に推移
- 輪転印刷機向け乾燥脱臭装置及び排ガス処理装置の販売は鈍化
- 計画に対し、下振れ



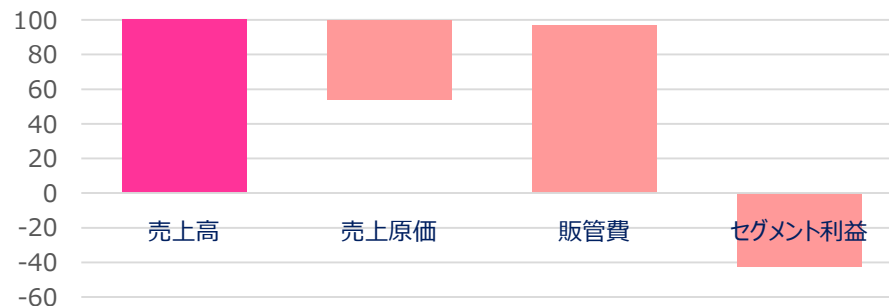
環境関連事業 売上高比較

(百万円)	平成27年 5月期	平成28年 5月期	前期比 増減率	(参考) 平成28年5月期 計画
売上高	1,331	1,032	△22.4%	1,100
セグメント利益	146	56	△61.4%	66

セグメント別売上高の比較 其他事業



- Webシステムの受託開発が堅調に推移したものの、会計基準の変更により連結上、費用処理したM&A仲介手数料等により、41百万円の営業損失
- 平成29年5月期より業績貢献を見込む



其他事業 売上高比較

(百万円)	平成27年 5月期	平成28年 5月期	前期比 増減率
売上高	—	96	—
セグメント利益	—	△41	—

連結貸借対照表



平成27年5月期 (百万円)

資産 計	5,285	負債 計	2,558
流動資産	4,451	流動負債	1,346
固定資産	833	固定負債	1,211
有形固定資産	482		
無形固定資産	209	純資産 計	2,726
投資 その他の資産	142	株主資本	2,628
		資本金	610
		資本剰余金	1,537
		利益剰余金	645
		自己株式	△164
		その他の包括 利益累計額	21
		非支配株主 持分	76
資産 合計	5,285	負債・純資産 合計	5,285



平成28年5月期 (百万円)

資産 計	5,853	負債 計	3,031
流動資産	4,565	流動負債	1,711
固定資産	1,288	固定負債	1,319
有形固定資産	596		
無形固定資産	500	純資産 計	2,822
投資 その他の資産	191	株主資本	2,834
		資本金	610
		資本剰余金	1,513
		利益剰余金	896
		自己株式	△185
		その他の包括 利益累計額	△12
		非支配株主 持分	-
資産 合計	5,853	負債・純資産 合計	5,853

自己資本比率

50.2%

自己資本比率

48.2%

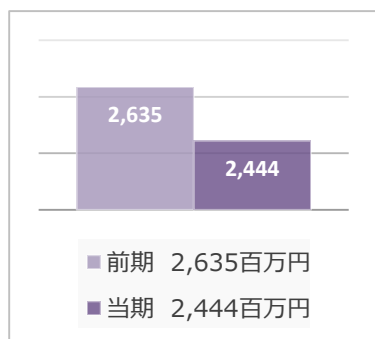
※流動負債の増加分365百万円のうち、約350百万円は、一時的な要因（11月販売予定の太陽光発電設備に関する借入）のため、それを除外した場合 自己資本比率 51.2%

連結キャッシュフロー

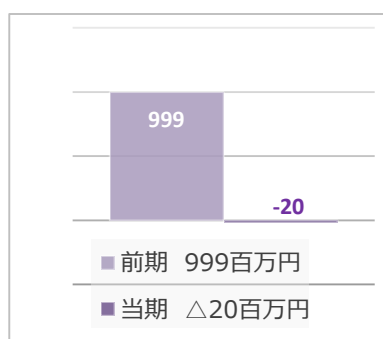


現金及び現金同等物の残高	2,444 百万円	➤ 前連結会計年度末に比べ、 191百万円 減少
営業活動によるキャッシュ・フロー	△20 百万円	➤ たな卸資産の増加 439百万円 （一時的増加約350百万円）や法人税等の支払額 166百万円 、税金等調整前当期純利益 444百万円 の計上や、売上債権の減少 133百万円 等によるもの
投資活動によるキャッシュ・フロー	△466 百万円	➤ 有形固定資産の取得による支出 158百万円 、新連結子会社株式の取得（株式会社Cuon・千葉事業所の開設）による支出 241百万円 があったこと等によるもの
財務活動によるキャッシュ・フロー	328 百万円	➤ 連結子会社株式の追加取得 117百万円 等、短期・長期借入れによる純収入 585百万円 があったこと等によるもの

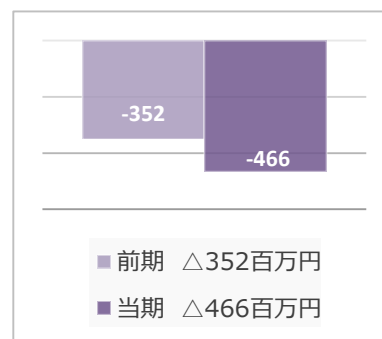
現金及び現金同等物の残高



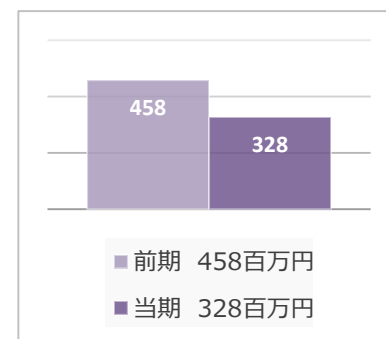
営業活動



投資活動



財務活動



※営業活動によるキャッシュ・フローのうち、約350百万円は一時的な要因のため、実質は約330百万円のプラス

LED光源装置、近赤外対応光源装置や高温対応、多数個測対応の瞳モジュールなどの、当社光学技術を将来性ある市場に向けて実現させる為に、要素開発や顧客別仕様対応などを行っております。

(百万円)	平成27年5月期		平成28年5月期	
	連結	単体	連結	単体
研究開発費	33	33	47	47
設備投資額	75	7	166	31
減価償却費	63	29	63	27
のれん償却額	17	-	31	1

連結受注高・売上高・受注残高の推移

事業セグメント (百万円)	受注高		売上高		受注残高	
	平成28年 5月期	前期比 増減率	平成28年 5月期	前期比 増減率	平成28年 5月期	前期比 増減率
光学精密検査機器関連	2,374	67.9%	2,344	89.7%	259	12.6%
再生可能エネルギー関連	1,649	14.0%	1,604	12.1%	86	111.5%
環境関連	1,180	△22.4%	1,032	△22.4%	526	38.9%
その他	90	-	96	-	10	-
合計	5,294	20.8%	5,078	27.0%	883	35.7%

2. 2017-2019 中期事業計画

2017-2019
中期事業計画

光れ!!

Spark for Next 30

— 2022年の創業30周年に向けて —



株式会社インターアクション

光れ!!

Spark for Next 30

● 中期ビジョン「光れ！ Spark for next 30」について

- 合言葉は「**光れ!!**」
- 「光」と「精密」にまつわる事業で成長拡大
- 従業員一人ひとりが自ら光り輝き、力を存分に発揮できる組織作り

▶▶ 中期ミッション 1

当社が、2017–2019年、3つの産業革命を支えるキープレイヤーになり、
未来の産業社会の創造に貢献します！！

● 1つ目の産業革命は、IoT産業革命

AI（人工知能）のディープラーニングを活用した自動運転においては、イメージセンサ（自動車の目となる部分）からの画像情報の収集と蓄積が重要となります。高度な技術を要する自動運転では、その目（イメージセンサ）の検査が重要性を増してきています。

イメージセンサの検査においてその良否を判定するためには、太陽の光に似た安定した光が不可欠ですが、当社の光源装置は、高度な光学設計技術により、高精度かつ高速で安定した光の照射を得意としており、この光源装置は現在、世界トップのシェアを獲得しています。

当該資産と技術者のさらなる育成をし、AIを活用した自動運転の実現に貢献致します。

● 2つ目の産業革命は、持続可能な産業社会の実現

地球温暖化対策を話し合う、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）を受けた世界的な環境規制の見直し（強化する方向へ）により、持続的な経済発展のためには、それを支える高効率な空気清浄技術、省エネ技術およびCO₂を排出しない再生可能エネルギーを支える技術が必要性を増してきています。

当社グループでは、株式会社エア・ガズ・テクノスが排ガス処理技術を、株式会社BIJが再生可能エネルギー設備の設計建設のノウハウを積み上げてまいりました。

今後は、更なる技術革新と技術者育成を通し、持続的な社会の発展へ貢献してまいります。

▶▶ 中期ミッション 3

● 3つ目の産業革命は、インダストリー4.0 マスカスタマイゼーション（個別大量生産）の実現

トヨタ生産方式に代表される大量生産時代から、インダストリー4.0と呼ばれる顧客からの個別の要望を即座に調達生産に反映させていく製造業全体の革新が起きつつあります。

インダストリー4.0実現の為には、製品やその生産ラインをバーチャルで設計する技術、企業同士の情報共有、ソフトウェアのアップデート（更新）を通じた製品性能UP、および顧客の製品仕様選定サポート技術が重要となります。

当社グループでは、

1. 当社千葉事業所が、3D設計技術者の育成を通じたバーチャル（モデリング）設計および設計情報を調達生産に反映させる技術の蓄積
2. 株式会社Cuonが、webを活用した情報選別システムの開発
3. 株式会社BIJが、その技術を活用した新ソリューションの実現

に取り組んでまいりました。今後は、さらなる対象事業の技術者の育成と、当社の特徴であるクライアントファーストに徹し、柔軟で新しい発想で新しい未来を創造致します。

▷▷ 新セグメント体制

3つの中期ミッションを受けた、今期からの新セグメント体制について

1. IoT関連事業

2. 環境エネルギー事業

3. インダストリー4.0推進事業

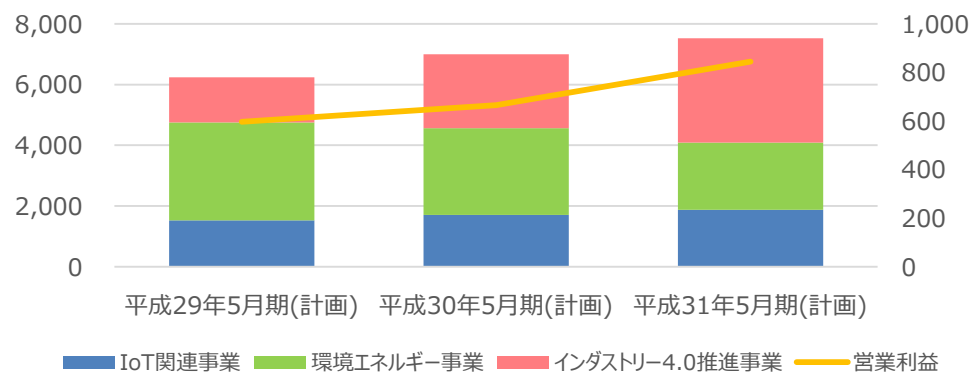
▶▶ 連結 3カ年業績目標



実績

3カ年目標

(単位：百万円)	3カ年目標			
	平成28年5月期	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上高	5,078	6,242	6,996	7,525
営業利益	467	597	665	844
ROE	11.0%	12%	13%	14%
ROIC	6.1%	9%	10%	11%



平成29年5月期 目標
EPS (1株当たり当期純利益)
41.21円
親会社株主に帰属する当期純利益
398百万円

セグメント紹介 1. IoT関連事業

事業テーマ

CCD/C-MOSイメージセンサ向け光源装置と光学設計技術で、
AI（人工知能）のディープラーニングを活用した自動運転等のIoT技術の発展に貢献します。

事業内容

- CCD/CMOSイメージセンサ向け検査用光源装置の開発・設計・製造
- 高度な光学設計技術を活かした瞳モジュールの開発・設計・製造

成長ドライバー

モバイル端末や車載カメラ向けのC-MOSイメージセンサ市場の拡大に伴う需要の取込み

3年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	1,530百万円	1,710百万円	1,880百万円
営業利益	629百万円	584百万円	668百万円

市場動向

- C-MOSイメージセンサ市場は5年間で170%の推移での拡大見込み
- C-MOSイメージセンサ市場のシェアを占有している企業が、積極的な設備投資を計画
- 市場成長の過程で自動運転向けのアプリケーションが拡大



セグメント紹介 1. IoT関連事業



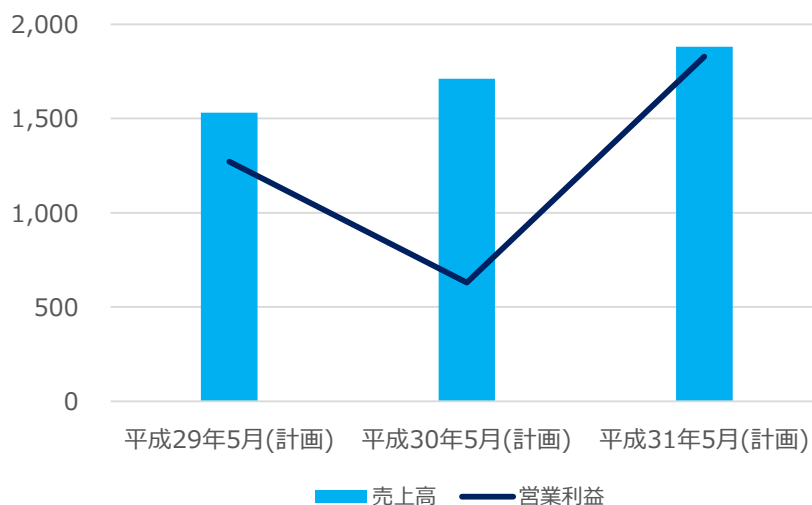
事業戦略

積極的な投資により利益の最大化を図る

可視光だけにとらわれず、目に見えない光を取り扱う技術や、半導体精密機器以外の分野への展開で、事業拡大を目指します。また、新製品の開発と販売を継続的に進め、高い収益性の維持に努めます。

1. C-MOSイメージセンサ市場シェアを占有している顧客に対し、重要な検査の前工程部分に光源装置・瞳モジュールを販売し、シェアを拡大します。また、マーケティング機能の強化により、主要顧客の設備投資時期の把握と早期の対応に努めます。
2. 近赤外線用光源のような特殊環境での使用用途拡大に向けて、現行光源装置をベースとした要素技術を確立します。
3. 多数個測に対応した瞳モジュールの新製品を立ち上げます。

3カ年目標推移



事業成長 キーワード



対象会社

株式会社インターアクション

▷▷ セグメント紹介 2. 環境エネルギー事業



事業テーマ

「環境」と「エネルギー」をテーマに、環境問題の解決へ貢献します。

事業内容

- 印刷機向けの乾燥脱臭装置と排ガス処理装置の開発・設計・製造
- 太陽光発電、バイオマス、風力発電等のシステムや設備の開発・設計



成長ドライバー

アジア諸国を中心とした、環境規制強化に伴う環境関連装置の需要の取込み

3か年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	3,221百万円	2,854百万円	2,204百万円
営業利益	50百万円	90百万円	124百万円

市場動向

- 中国・台湾などアジア圏での環境法規制の強化により、排ガス処理装置の需要が高まっている
- 世界の印刷市場の縮小傾向は底打ちとなり、中国を含むアジア諸国での乾燥脱臭装置の潜在需要が高まりつつある
- 大型リチウムイオンバッテリーの需要が自動車や家庭用蓄電システム向けに拡大、バッテリー構成材製造設備向けフローティング・ドライヤへの技術活用の見込み
- COP21の結果を踏まえ、資源エネルギー庁が再生可能エネルギーの導入水準を2030年に22～24%まで引き上げる方針
- 農林水産省が「バイオマス事業化戦略(案)」を発表し、2020年までに地域のバイオマスを活用した事業化推進による地域産業の創出と自立・分散型エネルギー供給体制の強化を実現予定



セグメント紹介 2. 環境エネルギー事業



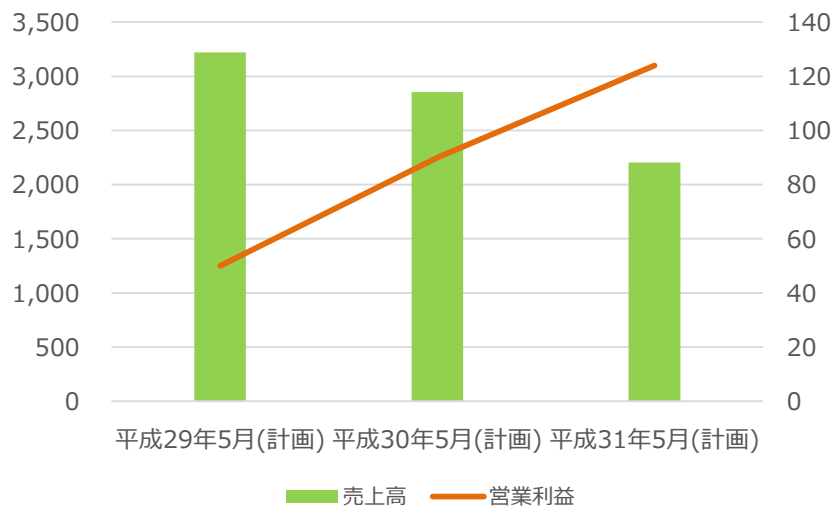
事業戦略

事業の着実な利益計上と安定的なキャッシュフローの創出を目指す

事業の幅を広げるための海外戦略と、既存顧客へのメンテナンスサービスの提供による、安定的収益の獲得に努めます。

1. 環境規制が強化される中国・台湾をはじめとするアジア圏の工場をターゲットに、アンモニア処理を含めた排ガス処理装置・乾燥脱臭装置の需要を取り込み、販路を開拓、販売数の増加を目指します。
2. 乾燥脱臭装置の高効率省エネタイプ、並びにコンパクトタイプの新設計装置を投入し、更新需要を取り込みシェア拡大を図ります。
3. 自動車や家庭用蓄電システム向け大型リチウムイオンバッテリーの製造過程で使用される、フローティング・ドライヤ等の新市場に向け、乾燥脱臭技術の応用を行います。
4. 金融機関との連携により、太陽光発電設備の需要を確実に取り込み、拡販に注力します。
5. 年間100件以上の太陽光発電設備販売実績を活かし、バイオマスや風力発電等の新しい再生可能エネルギー分野へ事業展開を行います。

3カ年目標推移



事業成長 キーワード



対象会社

株式会社インターアクション
株式会社BIJ
株式会社エア・ガシズ・テクノス

▷▷ セグメント紹介 3. インダストリー4.0推進事業



事業テーマ

サービス産業の効率化をテーマに、IoT技術を用いた新システムの提供で
サービス産業の発展に貢献します。

事業内容

- プログラミング言語Rubyを用いたwebシステムの開発
- 3D特殊設計とモデリング事業
- IoTを活用したサービス事業（ホステル事業等）
- 液晶ディスプレイの製造過程で使用される精密除振装置の開発・設計・製造



成長ドライバー

IoT技術を活用したシステム開発支援と販売チャンネルの拡大

中国をはじめとする海外シェアの獲得に向けた、ディスプレイパネルメーカーの新規ユーザーへの取組み

3か年目標

	平成29年5月期	平成30年5月期	平成31年5月期
売上	1,491百万円	2,432百万円	3,441百万円
営業利益	188百万円	269百万円	356百万円

市場動向

- IPv6やNGNやIoT技術の進展、普及による、あらゆるデバイスのネットワーク化
- 高齢化、労働人口の減少による産業の自動化、スマート社会化（スマートグリッド、スマートシティ）
- ディスプレイデバイス市場において、有機ELが今後大幅に伸びる見込み
- 中国がディスプレイデバイス向けの工場建設や投資拡大を計画、生産能力は2018年に世界トップに成長する見込み



▷▷ セグメント紹介 3. インダストリー4.0推進事業



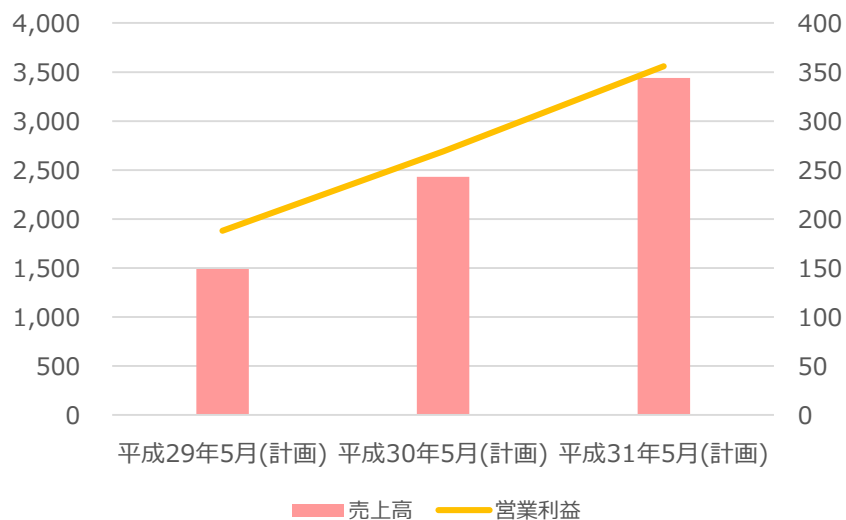
事業戦略

成長市場へのビジネス展開と、IoTビジネスとのシナジー効果を生み出して成長を図る、拡大戦略

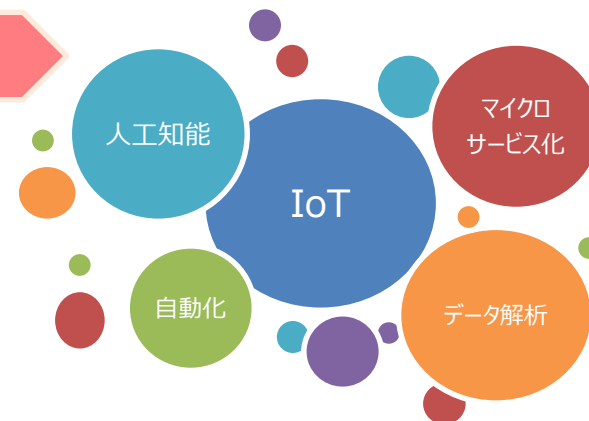
幅広い事業を扱うセグメントとして、社会の変化に柔軟に対応し、成長市場での事業展開の機会を掴みます。それにより、事業規模の拡大に伴う売上と利益の確保でグループ全体のさらなる成長を目指します。

1. Webアプリケーションの分野で広く利用されているプログラミング言語Rubyを強みとして、大手企業のWebシステムの受託開発のシェアを拡大し、自動運転のIoT分野での技術優位性の向上を目指します。
2. 3D特殊設計、モデリング事業を強化し、現場での打ち合わせや、試作コストを削減し、生産性の向上に貢献します。
3. 中国ディスプレイデバイス市場向けに精密除振装置の販売を強化、韓国の有機ELメーカーに対して市場開拓します。

3カ年目標推移



事業成長キーワード



対象会社

株式会社インターアクション
株式会社BIJ
株式会社Cuon
明立精機株式会社

■ 積極的 M&A



- ・ 事業規模拡大のため、M&Aを中心とした積極的な投資を行います。
- ・ 新事業と既存事業のシナジー効果（相乗効果）により、既存製品や技術の特異性を増やしたり、既存の販路を広げます。
- ・ 当社主要事業の位置する半導体市場の浮き沈みに対して、製品や技術の多様化によりグループとして競争を勝ち抜きます。

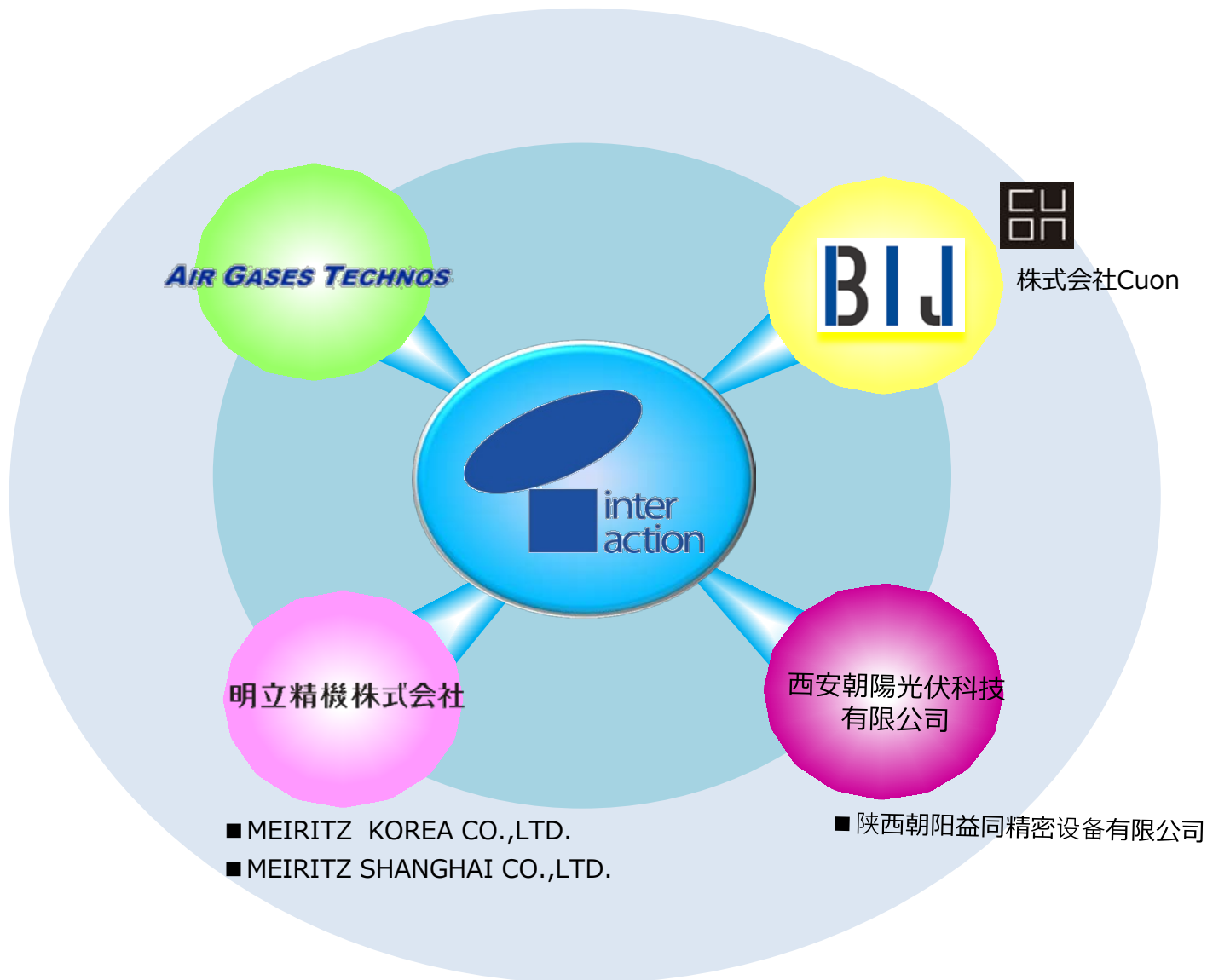
M&A 基準

- 1) 成長分野であるか、今後成長を見込める分野であるか
- 2) 現在まで培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であるか
- 3) 5年間の想定キャッシュ・フローをWACC（加重平均資本コスト）で割り引いたNPV（正味現在価値）がプラスであるか

事業撤退 基準

ROIC – WACC = マイナスとなる事業は撤退を検討！

▶▶ インターアクショングループ図



将来の事象に関する記述についての注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。

これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。